

<別紙1>

第三者評価結果報告書

① 第三者評価機関名

ナルク神奈川福祉サービス第三者評価事業部

② 施設・事業所情報

名称：しらゆり新城保育園	種別：認可保育所
代表者氏名：荒川 祐輔	定員（利用人数）：60名（73名）
所在地：川崎市中原区新城町 1-18	
TEL：044-948-9610	ホームページ： http://shinjyo-shirayuri.org
【施設・事業所の概要】	
開設年月日 西暦 2019年 4月 1日	
経営法人・設置主体（法人名等）：社会福祉法人 しらゆり福祉会	
職員数	常勤職員： 21名 非常勤職員 2名
専門職員	園長 1名 看護師 1名
	主任、副主任 2名 栄養士 2名
	保育士 19名 調理員 3名
施設・設備 の概要	(居室数)
	乳児室（0～2歳児室） 3室
	幼児室（3～5歳児室） 3室
	沐浴室 1室 ・ 調理室 1室
	トイレ 6室 ・ 事務室 1室
	職員休憩室（更衣室） 1室
地域子育て支援室 0室	
	(設備等)
	施設・設備の概要 建物の構造 鉄筋コンクリート 3階建ての1F・2F部分 床面積 489.59㎡ 園庭 229.72㎡

③ 理念・基本方針

<p>【保育理念】 子ども一人ひとりを大切に、子どもと保護者から信頼され、地域に愛される保育園を目指す</p> <p>【基本方針】 人間形成の過程で最も大事な乳幼児期に、基本的な生活習慣を育てると共に『知・情・意・体』の調和した人間として『生きる力』を育てるための保育を行う</p> <p>【保育目標】 たくましく心豊かな子ども <知>挨拶ができ自分で考え行動する子ども <情>やさしく思いやりのある子ども <意>強い心を持ち頑張る子ども <体>元気よく遊ぶ子ども</p>

④ 施設・事業所の特徴的な取組

<p>【立地および施設の概要】 しらゆり新城保育園はJR南武線武蔵新城駅から徒歩5分の所に立地しています。</p>

駅の近くでありながら園庭があり、外遊びの遊具も充実しています。園の近くには公園も多く、子どもたちは毎日のように散歩に出かけています。隣には建物のオーナーである寺があり、園の避難訓練にも協力してもらっています。敷地は寺が経営していた幼稚園の跡地であるため、子どもの声や生活音等にも一定の理解が得られており、地域と良好な関係を築いています。

【園の特徴】

設置法人は宮崎県都城市にあり、現在川崎市中原区内に保育所を3園展開しています（令和4年4月に新たに開園予定）。法人では『職員10か条』を掲げ、職員の行動指針にしています。全ての職員が、子どもたちの未来のために ①子どもの育ちを保証する

②質の高い保育を提供する という目標を受けて研鑽しています。

法人の各園では各自が行事部や研修部等の部会に所属し、保育の向上のために活動しています。人権についての意識を高めるため、毎年人権セルフチェックリストを行い、その結果をまとめ、研修や会議で振り返る取組も行っています。

⑤ 第三者評価の受審状況

評価実施期間	2021年 6月 3日（契約日） ～ 2022年 3月25日（評価結果確定日）
受審回数（前回の受審時期）	1回

⑥ 総評

◇特に評価の高い点

1. 年齢や発達に応じた戸外あそび

駅から近い立地ですが、園庭があり、体を十分に動かして遊ぶことができます。鉄棒や砂場があり、倉庫には滑り台、三輪車、コンビカー、竹馬、ボール、ぽっくり等の遊具が用意してあります。子どもたちは年齢や一人ひとりの興味に合わせた遊具で遊んでいます。夏は組み立て式の大型プールを設置して水あそびを楽しんでいます。また、園の近隣には公園が多くあります。子どもたちは毎日のように散歩に出かけて、のびのびと体を動かし、身近な自然に触れています。

2. 働きやすい職場づくりと積極的な職員採用の取り組み

川崎市の借り上げ住宅制度を取り入れています。入職時から利用できて、未婚既婚問わず利用でき、職員の大半が利用しています。人員に余裕を持たせて、休暇を取りやすくしています。残業や持ち帰りの仕事を無くすために、職員が事務作業に専念できる時間（ノンコンタクトタイム）を設けています。働きやすい環境を整え、保育の質の向上につなげています。

法人では近隣の学校だけでなく地方の養成校にむけて採用活動を行っています。採用希望者には、面接前にまず系列園全てを案内し、理念や方針についても十分に説明しています。理念に賛同した職員を採用しているため、離職率が低くなっています。

3. 保育の向上にむけた多様な職員研修

年間の研修計画を作成し、園外研修・園内研修を計画的に行っています。園長は職員の資質や能力に応じた研修受講を提案しています。職員で構成する研修部が職員の意見を取り入れながら、自主研修を推進しています。今年度はわらべうた研修、手作りおもちゃ作り等を行いました。さらに、毎年1回、主任を含む全保育士が系列園で1日保育に入る「姉妹園研修」を行っています。自園の課題や他園の良いところを見直す機会になっています。

◇改善を求められる点

1. 主体的な活動につながるさらなる環境の工夫

園には多様な玩具が用意してありますが、多くのおもちゃが扉のある物置や高い棚の上に収納されています。子どもが自主的・自発的に遊びが選択できるような玩具の収納、コーナーづくり等の環境設定に関するより一層の工夫が期待されます。「良い保育環境とは何か」「主体性を育む環境とは」について保育に関わる全ての職員が意見を出し合い、保育内容のさらなる充実につなげることが期待されます。

2. 調理担当者とのコミュニケーションの充実

調理は外部の委託業者が行っています。調理員は子どもの食事の様子を見たり話を聞いたりする機会がありますが、定期的には実施するに至っていません。また、調理員は職員会議に参加していません。委託業者の栄養士および調理員は、定期的に子どもの食事を巡回したり、直接会話するなどの機会を持ち、子どもの意見を聞き、より食事の時間が豊かになるような工夫が期待されます。

3. 人事考課制度の構築

職員の評価は、職員の専門性、職務遂行能力、成果、貢献度等の観点から、園長が総合的に評価しています。明確な人事考課基準は作成していません。現在法人と話し合いをしている段階ですが、求められる職員像を実現するための具体的な人事考課制度の確立が期待されます。

⑦ 第三者評価結果に対する施設・事業所のコメント

開園から3年を迎えたところで、客観的な視点から自園の保育を見直す機会とするべく、今回初めて第三者評価を受診しました。

保育室の環境設定についての改善点が明確になり、保育内容を充実させていくための重要なポイントとして職員間で共有できた点が、非常に意義のあることでした。当園は駅に近い立地ながら園庭を備え、恵まれた環境にあります。子どもたちがより自主的・自発的に遊びを選択できるような環境構成、主体性を育む環境設定について活発に意見を出し合いながら、さらなる工夫を重ねていきたいと考えます。

栄養士・調理員の方との連携については、園の課題であると認識しており、今後は今以上にコミュニケーションをとりながら、食育の充実にも繋げていきます。

また姉妹園が近隣にあることで、職員研修の機会を設けやすく、連携もとりやすいというメリットを再認識する機会にもなりました。その強みを活かし、今後は職員間のみならず、園児同士の積極的な交流も行いながら、法人全体の保育の質向上に努めて参ります。

しらゆり新城保育園
荒川 祐輔

⑧ 第三者評価結果

別紙2のとおり